

# 学会参加報告書

R21-081 山岡由佳

学会名：日本薬学会第144年会

日時：2024年3月29日~31日

## 1. 参加した目的

日本薬学会に参加した目的は2つあります。

1つ目は、学会とはどのような場所か学ぶことです。診療放射線技師はチーム医療の一員として診断や治療に関する重要な役割を担っており、常に新たな知識を取り入れて技術を磨く必要があります。そのためには研修会や学会に積極的に参加し、知見を広げることが大切です。しかし、学会とは新たな知識を取り入れる場所という堅いイメージしかありません。本学会を通して学会とはどのような場所か知ることで、将来、学会に参加しやすくなると考えました。2つ目は、学会発表とはどのようなものか学ぶことです。私は大勢の前で自分のことについて発表した経験がないため、将来放射線技師として学会発表をするときに参考にしたいと思いました。

## 2. 学会会場における様子（発表や展示会等）

学会会場には、企業展示ブースやポスター発表のブース、特別講演などがありました。企業ブースでは実験で用いるような装置から臨床で用いるような装置まで持ち込まれており、実演している様子を見ることができました。実際に湯山製作所と島津製作所、および東京理科器械株式会社（EYELA）の方から展示物に関する説明を受けました。湯山製作所の方から作業の効率化と薬剤師の負担を減らすピッキング装置について説明していただきました。本ピッキング装置はオーダーに応じて薬品トレイが自動的にセットされる、重量測定による監査システムを備えており、薬品の取り間違いや数量間違いを防ぐことができます。島津製作所の方から LCMS2050 という高速液体クロマトグラフィー質量分析装置、EYELA の方から恒温振盪機について説明していただきました。前者の LCMS2050 は低分子から高分子まで幅広い化合物を分析することができます。そのため、新たに合成された未知の化合物などの分析に用いられます。後者の恒温振盪機は室温 + 5°C から 60°C の間で液体を振盪させていきます。本装置は試験管を斜めや真横にして液体を振盪させたいという研究者のニーズに応じて開発されました。

薬学会は薬学関連の研究成果を発表する場だけだと思っていましたが、これらのように、薬剤師のニーズに応えた装置や一般の方が使えるような装置など薬学関連以外の発表もありました。

### 3. 今回の学会に参加して得られたこと（今後活かしていきたいことなど）

本学会を通して、目標である発表の仕方を学ぶことができました。学生から先生方だけでなく、企業の方まで幅広く発表者がいらっしゃいました。学生は、原稿内容と指示棒を持ち精一杯準備してきたことが伝わりました。一方、先生方は堂々とした姿でおられ、企業の方は私たちの様子を見て話しかけてくださるなど、学会に慣れている様子でした。しかし、両者に共通していたことは話し方です。両者とも語尾も最後まではっきりと話し、聞き取りやすかったです。また、文は短くするよう心掛けていらっしゃいました。私は声が最後の方に連れて小さくなる癖があります。今後、語尾を最後まで言うことを心がけて先生や友人と会話をし、就職活動時や学会発表時など相手に伝わるように話し方を工夫したいと思いました。

さらに、ネットワークの形成について学ぶことができました。ポスター発表や展示会において、屋木先生が発表者に対して、演題に関する質問や講演のお礼を述べる前後に、簡単な自己紹介をしていらっしゃいました。この様子から、距離感が近いポスター発表や展示会で発表者に話しかけることで他職種の方と接点を持つことができると思いました。ここで作った接点がのちに大きなネットワークに広がることを考えると考えられます。本学は単科大学であり、他の分野の方と接点が持ちにくいです。このような機会を通してネットワークを広げていきたいと思いました。また、学会での会話がすぐに大きなネットワークの形成に繋がらなくとも、初対面の人と情報交換するという練習になると思いました。

### 4. 学会参加の感想

学会には新たな知識を取り入れる場所という堅いイメージを持っていました。しかし、ポスター発表で質疑応答した後や参加者同士が気楽に話せる場所があり、他の研修者の方や会社の方と繋がる機会があることを知りました。将来、診療放射線技師として自身の専門知識を深めるためだけでなく、同業者や専門家とつながるという目的をもって学会に参加したいと思いました。また、本学会を通して研究開発は日進月歩していることを目の当たりにし、医療従事者として学び続けることの重要性を改めて感じました。今後、積極的に学会に参加し知識を深める努力をしていきたいと思いました。